社会福祉法人　吉備の里（法人事務局）
平成30年度　事業報告書

利用者サービスの充実と向上を基本とし、適正かつ安定した法人運営に向けて、年度計画に基づいた以下の重点施策について取り組んだ。

（第一種社会福祉事業）

○障害者支援施設（吉備の里なでしこ）

（第二種社会福祉事業）

○障害福祉サービス事業

生活介護事業（吉備の里たんぽぽ）

共同生活援助事業（吉備の里地域生活ホーム）

自立訓練事業（吉備の里なでしこ、吉備の里つばき寮）

就労移行支援事業（吉備の里なでしこ）

就労継続支援事業

（吉備の里チャレンジ、吉備の里ひなぎく、吉備の里希望）

自立生活援助事業（吉備の里地域生活ホーム）

就労定着支援事業（吉備の里なでしこ）

○障害児相談支援事業（吉備の里相談支援センター）

○特定相談支援事業（吉備の里相談支援センター）

○福祉ホーム事業（吉備の里希望）

（公益事業）

○日中一時支援事業（吉備の里地域活動支援センター）

（委託事業）

吉備中央町障害者等相談支援事業

吉備中央町発達支援事業

1 理事会・評議員会の開催

・監事監査（平成30年5月31日）

・第1回理事会（平成30年6月8日）

平成29年度事業報告・決算について

平成30年度1次補正予算について

定時評議員会の日程について

・第2回理事会（平成30年12月4日）

第3次中期計画の見直しについて

～グループホームの整備、新設～

平成30年度2次補正予算について

規程の整備について

・第3回理事会（平成31年3月19日）

平成30年度3次補正予算について

平成31年度事業計画、予算について

規程の整備について

・定時評議員会（平成30年6月26日）

平成29年度事業、決算報告について

2 重要事項課題への取り組み

(1) 地域生活を支える

利用者の地域移行を進めるため岡山市内にグループホーム「アメニティ」、吉備中央町内にグループホーム「つばき」を2箇所を新設。これによりグループホームの定員が100名となり、就労の場に応じた生活拠点の整備の充実を図った。

(2) 暮らしの安全対策とサービスの質の向上

緊急連絡体制、とりわけ法人職員の緊急連絡手段として[トークメールシステム]を導入。災害時のみならずあらゆる通信手段としても幅を拡げた。サービスの質の向上については、研修委員会を中心に「利用者主体」を共通のテーマとし階層別研修、全体研修を実施し、研修プログラムに相関性を持たせた。さらに、福祉サービスの向上を目的とした福祉サービスの第三者評価を「吉備の里チャレンジ」にて実施した。

(3) 福祉人材の確保と定着

活力ある法人づくりに向け、正規職員（新規学卒者）2名、臨時職員も必要に応じて随時採用し、併せて職員の資質の向上と安定した支援体制を図るため法人内研修の充実、必要となる資格取得のための研修への派遣を行った。（相談支援専門員、社会福祉士実習指導者研修、サービス管理責任者等）

(4) 新規事業への取組と財務基盤の安定化

グループホームの2箇所の新設に加え、新規事業として「自立生活援助事業」、「就労定着支援事業」を開始。国の創設した事業にいち早く対応し、ニーズの拡充に応える。加えて、該当する各種加算を有効かつ効率的に活用することで収入増を図った。

また、固定経費である電力料金については、電力調達先を新電力事業者株式会社F-powerから関西電力へ変更し、経費削減を図った。

(5) 寄附金の受入れ

寄附の受入れは、下表のとおり。地域生活ホームに入居されていた利用者の御家族より5,000,000円の寄附があった（ご本人は、地元で療養生活を送っていたが病気のため死去）。

単位：円

元利用者家族	5,000,000
吉備の里家族の会	200,000
梶谷福祉基金	120,000
計	5,320,000

吉備の里相談支援センター・吉備の里地域活動支援センター
平成30年度 事業報告書

【吉備の里相談支援センター】

障害者及び障害児の将来にわたる安心した地域での生活を支えるため、吉備中央町から委託を受けた相談支援事業所として、基本相談支援及び計画相談支援の両事業を通じ、事業所や関係機関との連携を図りながら、必要とされる情報の提供及び助言、サービス利用計画等の作成他を行った。

1. 吉備中央町委託障害者等相談支援事業

(1)基本相談実施日数:241日(職員計3名)

(2)支援方法

電話相談	152
訪問相談	39
来所相談	42
同行支援	22
ケア会議	12
その他	9
計	276

(3)障害別利用者

知的	55
身体	15
精神	202
発達	0
難病	0
その他	4
計	276

(4)支援内容

福祉サービスの利用等に関する支援	68
健康・医療に関する支援	38
不安の解消・情緒安定に関する支援	122
家族関係・人間関係に関する支援	15
家計・経済に関する支援	8
就労に関する支援(生活困窮含む)	4
生活技術に関する支援	3
保育・教育に関する支援	5
障害や病状の理解に関する支援	9
その他福祉に関する支援	4
計	276

2. 計画相談支援・障害児相談支援事業

(1)計画作成及びモニタリング

月	計画相談支援		障害児相談支援	
	計画作成	モニタリング	計画作成	モニタリング
4	20	21	13	1
5	17	7	2	0
6	5	11	1	1
7	9	16	4	2
8	5	12	3	1
9	9	16	1	15
10	8	24	0	1
11	6	15	1	2
12	2	15	2	4
1	10	15	0	2
2	8	12	1	1
3	10	12	0	3
計	109	176	28	33

合計:346件(内町外14件)

(2)計画相談登録者数(平成31年3月31日現在)

計画相談支援　117名
障害児相談支援　19名

基本相談については、障害者やその家族からの福祉サービス、日常生活等に関する相談(入口、繰り返し)を中心に、ひきこもりケースなどへの対応、障害者の置かれた立場を代弁するという権利擁護の観点に立った介入も適宜おこなった。

計画相談については、昨年度の257件に対し30年度は346件と89件の増となっている。要因としては、年齢面(65歳問題)や情緒面等において短い期間での訪問が必要となるケースが増えたことや、モニタリング実施標準機間の見直しによるものとなっている。

その他、専門知識の向上を目的とした各種研修会への参加や、平成31年度以降の収益アップを目指し、加算対象となる研修会(強度行動障害・医ケア児)の受講もおこなった。

町内の相談支援事業所1社が31年度総社市に移転予定であり、3事業所⇒2事業所となる。新たな相談ケースも定期的にあることで、きめ細やかなサービス提供も懸念される。

3. 吉備中央町障害者等地域自立支援協議会

(1)セッション等

・全体会(5月23日)(37団体)コミュニケーションツールについて
・運営委員会(全6回)(10団体)
・専門部会(全4回～6回)
　教育保育部会:就学説明会、発達支援ファイルの検討
　生活支援部会:福祉まつりでの「地域資源」プレゼンテーション
　就労支援部会:バザー、パネル展示
　精神保健部会:山本昌知先生講演会、みんなの広場交流会
・事例検討委員会(全11回)　事例検討研修会
・個別支援会議他

(2)イベント等

・おへそミーティング(町長懇談会)(7月27日)
・防犯安全研修(岡山北警察署)(8月17日)
・人権研修(四国少年院視察)(9月7日)
・ふるまいボランティア(ロードレース大会)(10月7日)
・人権啓発標語の募集(小学校、中学校)(応募者193人)
・チャレンジド交流授業2DAYS(11月9日、11月10日)
　加賀中学校(講師:片山　明　氏他)
・事例検討研修会(2月22日)

・みんなおいでぇ「福祉まつり」(11月17日)

第一部　基調講演
新見公立大学地域福祉学科　山本 浩史　教授
『地域共生社会と地域力』
～支え合うまちづくり～
第二部　プレゼンテーション
吉備中央町障害者等地域自立支援協議会生活支援部会
『知っとる？わがまちの社会資源あれこれ』

来場者数(350人) 会場:ロマン高原かよう総合会館

吉備中央町から委託を受けた、自立支援協議会の運営事務局として、障害のある方が自らの"思い"と"力"を最大限に発揮して、その方らしい自立を効果的に支援する同協議会の機能強化に取り組み、共有する"セッション"、協働する"イベント"を計画的に開催し、地域共生社会(住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制)の実現に向け重要な地域の支援体制の構築に努めた。

【吉備の里地域活動支援センター】
（日中一時支援事業）

吉備中央町から委託を受けた日中一時支援事業所（あおば）として、障害児（主に小学校、中学校に就学されている方）への活動の場の提供、見守り、社会に適応するための訓練を実施し、家族介護者の一時的な休息、相談等を通じた育児負担の軽減を図った。

1.実施日数：42日　※昨年度：45日

2.登録者数：8名

3.利用状況：のべ88人　※昨年度82人

月	のべ利用数	対象者	実施日	備考
4	11	4	4	木(1)、土(3)
5	6	3	3	土(3)
6	9	3	4	土(4)
7	7	3	3	木(1)、土(2)
8	11	3	6	木(3)、土(3)
9	10	3	4	土(4)
10	6	3	3	土(3)
11	4	3	2	土(2)
12	7	3	3	土(3)
1	6	3	3	土(3)
2	6	3	4	土(4)
3	5	3	3	土(3)
計	88	最低3、最大4	42	木(5)、土(37)

平均利用者数：2.1人　※昨年度1.8人

職員体制：2名

4.主な活動内容

おやつ作り、調理、体育遊び、ドライブ、社会見学、クリスマス会他

事業開設(H21年度)から10年が経過する中、町内事業者の充実等（放課後等デイサービス）もあり、2名平均の利用が続いている。事業に対するデマンドの変化は、送迎体制や社会資源・事業体系等の変化であり、ニーズ調査の実施等おこないながら、日中一時支援事業の今後の方向性を検討する時期となっている。

【吉備中央町発達支援事業】
発達支援教室「ぽけっと」

吉備中央町から事業運営の委託（H26年度開始)を受け、発達に支援が必要な児童及びその保護者に対し、発達を促すための療育と保護者が抱える療育上の不安軽減のための助言や必要となる支援をおこなった。

1.職員体制：2名（臨床心理士(1)、保育士(1)）

2.対象：就学前の幼児（主に2歳～6歳）　※受給者証不要

3.実施日数：88日※昨年度：91日

4.実施曜日等：火曜日、金曜日

（時間：9:20～16:00（1回50分）　※送迎なし

5.利用状況：のべ298人　※昨年度441人（約70%）

月	のべ利用数	対象者	実施日
4	28	8	8
5	21	8	7
6	30	8	9
7	25	8	9
8	26	9	8
9	23	9	7
10	31	10	9
11	26	10	7
12	20	10	6
1	18	10	7
2	26	10	8
3	24	10	6
計	298	110	91

平均利用者数：3.3人　※昨年度4.8人

6.事業効果（母子療育）

例年通りの個別/集団での療育支援（学習、設定保育、自由遊び、読み聞かせ、排泄他）を基本に、就学児への集団療育では、学校生活を意識した「お当番活動」、「時間割風スケジュール」、「挙手式の並列学習」などの新しいものに取り組んだ。

■保護者支援の成果

育児への不安や発達特性への戸惑いを受容し、家庭での関わりなどについて個別のアドバイスをおこなった。また、おかやま発達障害者支援センターとも連携をとり、講師派遣を依頼。ぽけっとの保護者を対象とした「ペアトレ研修会」を開催した。

■保育園、幼稚園との連携による成果

課題を抱えたケースについては、園とカンファレンスの機会を設け、必要の都度訪問し、集団生活の様子を見学、療育との連携を図った。

■ぽけっと卒業生及び同保護者への支援

昨年度より、会の名称を「びすけっと」とし、ぽけっと卒業生及び保護者との定期的なかかわりを続けている。

町内に複数の事業者が開設し、障害児における地域支援の充実が図られる中において、他施設との区別化が重要な課題である。今後においては、岡山市にある"児童発達支援センターまな星"が、吉備中央町へ提起している"総合療育検診事業"との連携を深めながら、事業所としての魅力と事業の効果を高めたいと考える。

吉備の里希望(就労継続支援Ｂ型事業)
平成３０年度 事業報告

１．概　　要

平成２４年４月より、定員４０名の就労継続支援Ｂ型事業所として運営を開始して７年目を迎えた。生産活動を主体とした個別支援計画に基づき、日中活動の充実を図った。

【事業推進体制】

利用定員　４０名		
体制	管理者	１名
	サービス管理責任者	１名
	生活支援員	１名
	職業指導員	７名
	目標工賃達成指導員	１名
	看護職員	１名
	常勤換算	7.7名

２．事業目標への取り組み

（１）生産活動の充実

継続して「湯郷ベルホームゲームでのグッツ販売」「岡山シーガルズのグッツ販売」や各種イベント等へ出店し販売した。しかし、西日本豪雨によりイベント中止など販売に影響があった。下請け受注作業においては、紐通し作業の新規導入を行うなど自動車部品加工(コルゲート、芯金ほか)を中心に、個々の障害特性に応じた作業配慮、またニーズ（個別支援計画）に沿った作業の提供を行うことができた。

【作業収入実績】　（千円）

作業収入	平成29年度	平成30年度
下請作業	６，５４３	８，４１５
自主生産	８，５９３	６，４３６
計	１５，１３６	１４，８５１

（２）工賃の引き上げ

目標工賃（平均月額）を２０，８１５円としていたが、平成３０年度実績（岡山県報告）２１，０９１円を報告することができた。

【工賃実績】　（円）

	平成29年度	平成30年度
目標工賃	１９，７００	２０，８１５
月平均工賃	２０，２０９	２１，０９１
（延べ人数）	（５０９人）	（４８３人）
工賃支払総額	10,286,490	10,186,940

（３）利用の促進

相談支援センター、支援学校、市町村訪問など利用促進のＰＲを実施し、平成３０年度は５名の新規利用契約ができた。

【新規契約】

契約月日	出身地域	居住先
4月 9日	倉敷市	吉備の里ＧＨ
7月 11日	新見市	吉備の里つばき
8月 1日	笠岡市	吉備の里ＧＨ
10月 1日	岡山市	吉備の里つばき
11月 20日	吉備中央町	自宅

【契約解除】

解除月日	理　　由
6月 30日	Ａ型事業所就労
7月 31日	施設入所
10月 31日	家庭復帰
11月 30日	訓練施設
2月 28日	入院
3月 31日	他のＢ型事業所

３．利用者の状況

（１）契約の状況

定員４０名に対して月平均契約者数は４３．６名（４４名)、月平均利用者数は３６．７名（３８．７名）であった。【利用者数推移】　（人）

月	契約数	開所日	延人数
30.4月	44	21	778
5月	44	22	829
6月	43	21	803

7月	43	21	782
8月	44	19	726
9月	44	20	755
10月	44	22	774
11月	44	21	805
12月	44	21	756
31.1月	44	21	696
2月	43	20	692
3月	42	22	755
合　計	523	251	9,192

（2）年齢別構成（3月31日現在）

利用者の年齢は、男性の平均年齢は、43．6歳、女性の平均年齢は35．1歳で全体の平均年齢は40．5歳であった。（最高71歳）

（人）

年齢区分	男	女	計
20歳以下	2	0	2
21～29歳	3	4	7
30～39歳	6	6	12
40～49歳	7	4	11
50～59歳	4	1	5
60歳以上	5	0	5
計	27	15	42

（3）障害別構成（3月31日現在）　（人）

障害支援区分	男	女	計
肢体不自由	18	6	24
視覚障害	1	2	3
聴覚障害	1	0	1
知的障害	7	6	13
精神障害	0	1	1
計	27	15	42

（4）居住別構成（3月31日現在）　（人）

居住場所	男	女	計
希望福祉ホーム	13	7	23
吉備の里GH	6	2	7
つばき寮	2	2	3
高齢者施設	2	0	2
自　宅	4	4	7
計	27	15	42

4．その他

（1）防災・安全管理

消防計画に沿って、通報・避難・消火等の訓練を実施するとともに、委託業者による消火器・誘導灯・非常放送などの設備点検を実施した。

月　日	内　容
5月19日	電気設備点検
6月8日	総合避難訓練（避難誘導） ひなぎく作業棟ボイラー室から出火想定。　利用者　35人
6月29日	トークメールシステム　テスト
7月20日	消防設備点検・消火訓練
1月30日	消防設備点検・消火訓練
2月22日	合同避難訓練（避難誘導） 地震想定　　利用者　30人

（2）健康管理

総合健康診断・歯科検診等を実施し、利用者の健康管理に努めた。

【検診等】

月　日	内　容
6月19日	歯科検診：大森歯科医院
8月24日 8月31日 9月4日	大腸検査（検便）
10月26日 11月5日	総合健康診断 健康づくり財団
11月19日 11月20日	インフルエンザ予防接種 賀陽クリニック

（3）利用者研修

月　日	内　容
5月 19日	・工賃規程について ・平成29年度工賃実績について ・平成30年度工賃目標について ・防災について ・B型利用について ・福祉ホーム利用について 利用者　36名
11月 1日	・研修旅行（鳥取県） 水木しげるロードほか

	行先は、利用者自治会アンケートにより決定。 利用者　３５名　家族６名

（４）行事

月　日	内　容
5月 2日	歓迎会 利用者35人　保護者4人
8月 25日	サマーパーティー 梶谷基金助成事業 利用者42人保護者11人一般5人
12月 8日	利用者忘年会　利用者31人
1月 10日	利用者初詣 吉川八幡宮　　自治会役員2人
1月 11日	成人式（法人） 対象者1人
1月 19日	新年会 利用者42人

（５）　苦情解決

自治会役員と定期的に意見交換会（年４回）を実施し、利用者からの要望を聞き、改善可能なものは実施した。また、１１月１５日に第三者委員会を開催し、意見交換会の内容を報告するとともに、第三者委員と自治会役員が直接意見交換を行った。

【第三者委員名簿】

所　　属	氏　名
吉備中央町議会議員 町議会議長	黒田　員米
塚本内科医院 居宅介護事業所管理者	柳原富美男

【利用者自治会役員意見交換会】

月　日	内　　容
5月 18日	自治会長他４人 要望なし ふるさと祭り自治会バザー打合せ
7月19日	自治会長他４人 作業中に無駄話が多すぎる。 サマーパーティー打合せ。
9月19日	自治会長他４人 作業棟のコップが取り出しにくい。 掃除時間がまちまちになっている。
11月 15日	第三者委員会 自治会長他４人 Ｂ型事業所への要望なし

【ヒヤリハット】

月　日	内　　容
6月 6日	**(左親指ケガ)** リード線カットをしていて親指をハサミで切ってしまった。看護師確認バンソウコウ対応。
7月 19日	**（水栓から漏水）** Ｂ型通用口蛇口の漏水　業者対応。

吉備の里希望(福祉ホーム事業)
平成３０年度 事業報告

１．概　　要

平成２４年４月より、定員４０名の福祉ホーム事業（地域生活支援事業）として運営を開始して７年目を迎えた。設備面の、老朽化が目立ってきたが安全で安心した生活が出来るよう支援を行った。

【事業推進体制】

利用定員　４０名		
体制	管理者（兼務）	１名
	管　理　人	７名

２．事業目標への取り組み

（１）快適な暮らしの場の提供

福祉ホーム周辺の環境整備や害虫駆除、建具等の不具合の修理等行った。また、利用者からの要望により居室の清掃等も行い快適な生活の確保を図った。

実施月	内　容
30年５月	共用室へテレビ設置
30年７月	浴室シャワーハンガーの支持物修理
30年７月	手洗い場センサー故障
31年２月	福祉ホーム外周路の舗装整備

（２）利用の促進

市町村、関係機関等へ利用促進のＰＲを行いました。　平成３０年４月に、知的障害のある女性１名を受け入れました。

３．利用者の状況

定員４０名に対して月平均契約者数は２５．１人であった。利用者の年齢は、男性の平均年齢は、４５．８（４４．１）歳、女性の平均年齢は３２．８（３０．０）歳で全体の平均年齢は４２．４（４０．６）歳であった。（最高６０（６１）歳）

（）は、前年度実績。

（１）契約の状況　　（人）

年　月	契約者数	男性	女性
４月	２８	２０	８
５月	２８	２０	８
６月	２７	１９	８
７月	２６	１８	８
８月	２６	１８	８
９月	２６	１８	８
10月	２４	１７	７
11月	２４	１７	７
12月	２３	１７	６
１月	２３	１７	６
２月	２３	１７	６
３月	２３	１７	６
合　計	３０１	２１５	８６

（２）年齢別構成（３月３１日現在）　　（人）

年齢区分	男	女	計
20～29歳	１	３	４
30～39歳	４	１	５
40～49歳	６	２	８
50～59歳	４	０	４
60歳以上	２	０	２
計	１７	６	２３

（３）障害支援区分（３月３１日現在）　（人）

障害支援区分	男	女	計
５	１	０	１
３	５	０	５
２	５	２	７
１	１	２	３
非該当	０	１	１
未調査	５	１	６
計	１７	６	２３

（4）日中活動別構成（3月31日現在）　（人）

日中活動	男	女	計
一般企業等	0	0	0
A型事業所	4	0	4
B型事業所	13	6	19
計	17	6	23

（5）出身地別構成（3月31日現在）　（人）

市町村	男	女	計
岡山市	3	2	5
倉敷市	1	1	2
玉野市	3	0	3
井原市	1	0	1
総社市	1	0	1
高梁市	2	1	3
瀬戸内市	1	0	1
真庭市	1	0	1
里庄町	0	2	2
吉備中央町	2	0	2
福山市	1	0	1
香川県観音寺市	1	0	1
計	17	6	23

4．生活支援等の状況

（1）食事提供

食事希望者へ、食事委員会での協議や嗜好調査を踏まえ、季節感のある食事が提供できた。

（2）健康・衛生管理

朝・夜の利用者確認を実施し、異常等の早期発見に努めた。また、集団で生活していることから、インフルエンザやノロウィルスなどの感染性の疾患についても懸念されていたが、うがいや手洗いの励行・マスクの着用など周知することで、集団感染を予防することができた。（A型1名）食事制限など必要な方には、健康管理の大切さなど助言を行うなど、安心できるサービス提供を実施した。

5．そ　の　他

（1）契約解除

契約解除月	理　　由
4月	入院（整形手術）　1人
6月	吉備の里GHへ移行　1人
7月	入所施設へ移行　1人
10月	自宅へ移行　2人
12月	自宅へ移行　1人
計	6人

（2）安全管理

消防計画に沿って防災訓練や定期設備点検を行い、利用者の安全確保に努めた。

月　日	内　　容
5月 19日	電気設備点検
7月 20日	消防設備点検、消火訓練
8月 10日	夜間合同訓練（避難誘導・通報訓練） 希望福祉ホーム喫煙室から出火想定　対象利用者　13人
11月 16日	合同訓練（避難誘導・通報訓練） つばき寮喫煙所から出火想定 対象利用者　25人
1月 30日	防災機器点検、消火訓練

（3）苦情解決

自治会役員と定期的に意見交換会（年4回）を実施し、利用者からの要望を聞き、改善可能なものは実施した。また、11月15日に第三者委員会を開催し、意見交換会の内容を報告するとともに、第三者委員と自治会役員が直接意見交換を行った。

【　第三者委員名簿　】

所　　属	氏　名
吉備中央町議会議員 町議会議長	黒田　員米
塚本内科医院 居宅介護事業所管理者	柳原富美男

【利用者自治会役員意見交換会】

月　日	内　　容
5月18日	自治会長他４人 女子トイレの水漏れ修理。 共用室のテレビ設置要望。 浴室の扉が重たい、シャワーフックが外れている。
7月19日	自治会長他４人 浴室扉が重い。 浴室扉が閉まらない。
9月19日	自治会長他４人 冷蔵庫の霜が多い。
11月15日	第三者委員会 自治会長他４人 ・トイレセンサー反応が悪い。 ・食堂前の自動ドアのフロアーが凸凹している。 ・「ふりかけ」を使いたい。

【ヒヤリハット】

月　日	内　　容
5月14日	**（利用者キャッシュカード紛失）** 郵貯のカードが無くなり、2万5千円がおろされていた。カード利用を停止する。後日、奥さんが引き落とした事が判明。
5月18日	**（娯楽室にマムシ）** 娯楽室に３０㎝のマムシ
7月11日	**（屋根瓦割れ）** 雨天時に２・３号棟より雨漏りのため屋根を確認。3枚の瓦割れを発見交換。
7月17日	**（浴室トビラ故障）** 浴室の扉が開かなくなり利用者が閉じ込められた。
7月19日	**（女子トイレ手洗いセンサー古城）** 手洗いセンサー故障のため手洗いできず。
8月10日	**（利用者転倒　夜間避難訓練）** 夜間避難訓練時の避難場所である「ふれあい広場」への経路での段差に車イスが引っかか有転倒する。右ひじを擦りむき頭部も打った。緊急にて通院し検査するが異常なし。
9月29日	**（ポプラにて万引き）** ポプラから万引きの報告がある。確認すると、ソーセージ・おにぎり・など数点を万引きしており保護者・当事者・警察・ポプラ間にて話し合いを行う。しかし、本人から反省が伺う事が出来ない。当面、家庭で見守りとする。
10月17日	**（オーブンの焦げ）** 共用室で利用しているオーブントースターが焦げているのを発見する。

吉 備 の 里 な で し こ

平成 30 年度事業報告書

１．概要

日中の福祉サービスである「自立訓練（生活訓練）事業」、「就労移行支援事業」を利用する障害者で、通所が困難な者や入所施設を利用することで訓練効果が期待できる者に対して、施設入所支援を併用した支援を行っている。

自立訓練では、地域生活を営むための生活技術の獲得と向上を、就労移行支援事業では、一般就労への移行を目標とし、施設入所支援では、日中事業との連携による訓練や支援を行い、生活リズムを確立できること、充実した余暇が過ごせるような支援を行っている。

10 月からは、一般就労後６か月を経過した者に対して、安定した職業生活が継続できるように就労定着支援事業を開始し、支援の連続性に向け、定着支援の充実を図っている。

２．事業目標の検証

（１）就労移行の推進

平成 30 年度に就労移行支援事業を利用して、求職活動を展開した１２名の内、６名が一般の企業への就職に移行することができている。また、個々の状況に応じて、見学や体験実習等を実施し、当事者の意向を踏まえ、進路先は、以下の内訳となっている。

区分	男性	女性	合計
一般就労	5	1	6
就労継続支援Ｂ型	4	0	4
家庭復帰等	1	1	2
合計	１０	2	１２

なお、上記の内、２名が法人内の宿泊型自立訓練事業へ移行し、残る者は、他法人のグループホームや自宅を生活の場としている。

（２）新規利用者の確保と定員管理

毎年、新規利用者 10 名程度の確保を目指し、支援学校及び相談支援事業所と連携し、年度内に 12 名の新規利用者を確保することができている。

所属	男性	女性	合計
誕生寺支援学校	3	1	4
岡山東支援学校	0	1	1
岡山西支援学校	0	1	1
健康の森学園支援学校	2	0	2
井原高校	0	1	1
在宅等	2	1	2
合計	7	5	１２

３．利用者の状況

第１表　日中活動の利用状況（通所者含）

	自立訓練（定員 20 名）			就労移行支援（定員 20 名）		
月	総計	男性	女性	総計	男性	女性
４月	20	14	6	２２	16	6
５月	21	15	6	２１	15	6
６月	21	15	6	２１	15	6
７月	21	15	6	２１	15	6
８月	21	15	6	２０	14	6
９月	21	15	6	２０	14	6
10 月	21	15	6	１９	14	5
11 月	21	15	6	１９	13	6
12 月	21	15	6	１９	13	6
１月	21	15	6	１９	13	6
２月	20	15	5	１９	13	6
３月	20	15	5	１６	11	5
計	249	179	70	236	166	70

第２表　施設入所支援の利用状況

月	初日在籍	男性	女性
４月	３９	２８	１１
５月	４０	２９	１１
６月	３９	２８	１１
７月	３９	２８	１１
８月	３８	２７	１１
９月	３８	２７	１１
10 月	３７	２７	１０
11 月	３７	２７	１０
12 月	３７	２７	１０
１月	３７	２７	１０
２月	３５	２６	９
３月	３４	２６	８
計	４５０	３２７	１２３

第３表　障害の状況

（療育手帳区分）※30 年４月時点

区分	男性	女性	合計
A	1	0	1
B	２６	１１	３８
その他	1	0	1
計	２８	１１	３９

（障害支援区分）※30 年４月時点

区分	男性	女性	合計
1	4	1	5
2	１３	3	１６
3	3	5	8
4	7	2	9
5	1	0	1
6	0	0	0
計	２８	１１	３９

第４表　年齢別内訳※30 年４月時点

区分	男性	女性	合計
18 歳未満	1	0	1
20 歳未満	１２	6	１８
20～25 歳	１５	5	２０
25 歳～	0	0	0
計	２８	１１	３９

新規利用者の多くが、支援学校高等部卒業者であることや年度途中に新規利用する者も 20 歳代前半であるため、平均年齢は 20 歳となり、障害程度も考慮すると若年中軽度の障害者が利用していることがわかる。

4．個別支援計画策定

利用者の意向、適性、障害の特性及びその他の事情を勘案し「個別支援計画書」を作成し、支援計画に沿った自立訓練事業、就労移行支援事業及び施設入所支援の障害福祉サービスを提供している。

また、10 月からの就労定着支援事業の利用者に関しても安定した就労に向けた支援のための「個別支援計画書」を作成している。

モニタリングは、原則として３ヶ月ごとに実施し、サービス調整会議を経て、個別支援計画の見直しや修正を実施している。

なお、自立訓練事業の利用者に向けては、毎月ごとに「個別計画支援計画書」を作成し、「応用日常生活動作」、「認知機能」、「行動上の障害」にかかる支援を実施している。

５．事業の実施状況

（１）自立訓練（生活訓練）事業

①概要

地域生活を営むうえで必要な日常生活スキルの向上を図るための訓練を実施し、就労移行支援事業につながる基本的な労働習慣の育成に努めている。

３０年度においては、自立訓練事業が将来の社会生活・職業生活の基礎となる視点を持ち、訓練の重要性を意識した取り組みを実施している。

②訓練プログラム

■日常生活訓練：（8:30～10:00・15:00～16:00）

身辺処理、清掃、洗濯、金銭管理などの基本的な生活スキルの習得、向上を目指し、日常的な訓練を実施している。

■調理訓練

調理に不慣れな利用者に向けて、初歩的な技術を習得することを目的とした調理訓練を実施し、食事を考える機会ともしている。

■外出訓練

公共交通機関の利用を学ぶ目的で、路線バスの利用やＪＲを利用した外出及び買い物訓練を実施し、移動手段の理解と習得に努めている。

また、事前に療育手帳を使用することでの割引制度などの学習も実施している。

■作業訓練：（10:00～15:00）

自動車部品加工の下請け作業、農作業及び法人内の他施設の清掃作業などを就労に向けた基礎訓練と位置付け、評価を行っている。

作業訓練により得られた収入の中から必要経費として差し引き、訓練手当として利用者に還元している。

■進路支援

自立訓練事業２年目の利用者を中心に進路に向けた意向確認と相談の結果、11 名が事業所内の就労移行支援事業へと移行している。また、1 年目の利用者 1 名も年度途中で事業所内の就労移行支援事業へ移行を終えている。

（２）就労移行支援事業

①概要

事業所内の生産活動や吉備中央町内での職場実習の機会を提供しながら就労に必要な知識及び職業能力の向上を図り、就労に関する支援機関との連携の中で求職活動を実施している。

②訓練プログラム

■作業訓練

事業所内訓練として花卉栽培、農作業及び環境整備を通じて、職業前訓練を実施している。また、近隣企業の理解を得て、施設外訓練として実習を行っている。

■生活支援

就労先が決定すると同時に他法人のグループホームの利用となるケースも想定して、公共交通機関を利用した移動、金銭管理、健康管理などの支援を実施している。

吉備の里の利用の終了に伴い、成年後見制度の活用が必要な者に対しても支援を行っている。

■求職活動支援

就労移行支援事業２年目の利用者を中心に、ハローワーク、障害者職業センター等の登録、検査を実施し、多方面からの情報収集により、見学、面接、体験の他、各地で開催される障害者集団面接会に参加するなどの求職活動を実施している。

その結果、30 年度においては、6 名が一般就労に移行している。

なお、30 年度の一般就労移行者においては、年度途中から予定されていた「就労定着支援事業」の利用と、その事業開始に至るまでの期間をフォローアップ・アフターケアとして対応することを確認し移行の支援としている。

就職及び移行先	所在地	区分	人数
佐川急便（株）	岡山市	一般	1
シーピー化成	井原市	一般	1
岡大ｸﾞｯﾄﾞｼﾞｮﾌﾞ	岡山市	一般	1
（株）Ｌｅｅ	岡山市	一般	2
大黒天物産	岡山市	一般	1
吉備の里ひなぎく	吉備中央町	Ｂ型	1
100 万回のサアーたいへん作業所	新見市	Ｂ型	1
さくらワークヒルズ	津山市	Ｂ型	1
浜っこ作業所	備前市	Ｂ型	1
（事業変更）	吉備中央町	自立	1
家庭復帰	赤磐市		1
計			12

なお、事業変更の利用者は、グループホームの待機登録を実施していたものの利用期間中の移行が困難であったことから、市及び相談支援事業所と相談し、事業所内の自立訓練事業へとサービス変更を行っている。

（３）施設入所支援

■日常生活支援

施設内での安心・安全な生活を支援できるように環境を整えると共に、日常の生活の中にあるスキル（洗濯・清掃・入浴・健康管理・金銭管理・衛生管理等）について、個別の支援を実施している。

夜間支援員とは、出勤時と朝礼時の引継ぎを通じ、情報を共有し、会議を定期的に開催する中で夜間支援の質の向上を図っている。

■行事

施設の中で、利用者の生活の質が向上できるように自治会をはじめ、保護者会とも連携しながら以下の行事を開催している。

なお、施設行事の際には、利用者の意向が反映できるようアンケートや個別の聞き取りなどにより共に行事を開催する意識の向上に努めている。

月日	行事名	場所
4.3	新規利用者歓迎式	施設内
4.8	花見会（保護者会）	施設内
4.29~	障害者スポーツ大会（各種競技）	岡山市内
6．3	ふるさと祭り	施設内
7.14	利用者研修旅行	兵庫・香川
11.11	保護者会バス旅行	広島県
12.12	餅つき（保護者会）	施設内
1・11	成人式	

なお、例年開催される「ロードレース大会」は、台風接近のため、中止となっている。

■健康管理支援

嘱託医による月一回の健康診断の他、歯科の総合健診、総合健康診断を年１回実施し、異常が認められた利用者には、医療機関への受診

支援の他、健康管理に努めている。

30 年度においては、インフルエンザなどの感染症に罹患する利用者はおらず、予防的な指導が一定の成果をあげたと思われる。

入院に関しては、網膜剥離により利用者 1 名が入院・治療を行ったが、その他の利用者は問題なく過ごすことができている。

発達障害に伴う医療機関の受診支援も増加しており、支援者の基本的な障害及び服薬などの理解を高める必要性も生じている。

■自治会活動

行事の企画参加、施設への要望の取りまとめ、生活上のルール作りなどを自主的な活動として側面的に支援を行っている。

自治会を運営する利用者が、就労などで欠員が生じることに対しての補充や運営などの新たな課題に向けた支援の必要性も感じている。

（4）就労定着支援事業

①概要

一般の企業に就職し、6 か月を経過した者に対して、月一回以上、就労先への訪問や家庭訪問を実施し、助言や就労上の調整を行う。

②対象者等

対象となる一般就労者に事業の説明・理解等、事前の取組み不足もあり、30 年度末の時点で 2 名の登録者に止まっている。

30 年度の一般就労者に対しては、事業の開始予定を伝えていることから、就労後 6 か月を経過した際には、スムーズな登録になると期待している。

現在、月 1 回の訪問指導のうえ、将来の対象者に対してもフォローアップとして助言や調整を実施している。

6．その他の施設運営

（1）見学・利用相談・体験利用の受入れ

所属	男性	女性	計
誕生寺支援学校	4	1	5
岡山東支援学校	0	1	1
岡山西支援学校	2	2	4
岡山西備支援学校	1	1	2
健康の森学園支援学校	2	0	2
岡山東備支援学校	1	0	1
倉敷まきび支援学校	2	0	2
瀬戸高等支援学校	1	0	1
琴浦高等支援学校	0	1	1
岡山聾学校	1	0	1
倉敷支援学校	1	0	1
相談支援より	6	2	8
計	２１	8	２９

年間を通じ、各地の支援学校（高等支援学校を含む）及び相談支援事業所からの利用相談・体験利用を 29 名受入れ、新規利用者の確保に向けた評価と見通しを提供し、利用に向けた支援としている。

その結果、30 年度途中に 4 名の新規利用の他、支援学校より 31 年 4 月利用開始者 8 名の利用につながっている。

（2）苦情解決

施設内における苦情処理責任者・苦情受付担当者及び外部の第三者委員を配置し、苦情解決体制を整えている。

30 年度においては、2 件の苦情を処理し、その経過及び結果については、第三者委員会を通じて報告、助言を受けている。

月	内容	申出人	結果
８月	利用者預かり物の管理不備	家族	謝罪・解決
12月	支援者の支援時の対応	家族	謝罪・解決

（３）防災対応

法人内の委員会である「防災委員会」を通じ、法人内及び事業所内の避難・通報・消火等の訓練方法を確認しながら実施している。同時に業者による設備点検や消火器、避難経路等の自主点検を実施している。

また、新規に「トークメールシステム」を導入し、使用方法の学習等も実施している。

（４）防犯対策

他法人事業所で開催された不審者防犯対応訓練に参加すると共に、防犯カメラ、催涙スプレーの設置及び屋外フェンスの施錠管理など、防犯対策を継続している。

また、夜間支援員とも常に連絡できる体制の中で防犯意識を高めるように支援を行っている。

（５）施設・備品等の整備

施設内の設備の老朽化に伴い、常に点検と維持・回収に努め、利用者からの意見に対応できるよう安全や衛生・美化の推進と施設の保全に努めている。

（６）学生実習・ボランティアの受入れ

学生の実習においては、社会福祉士を目指した「相談援助実習：１名」の他、保育士資格取得のための「保育実習」を各養成校５校より10名の学生を受け入れている。その他、近隣の高等学校の福祉コースよりボランティアを定期的に受け入れ、学習の場として提供している。

吉備の里ひなぎく（就労継続支援Ｂ型事業）
平成３０年度事業報告書

１．概　　要

平成25年4月より障害福祉サービスの就労継続支援Ｂ型事業所（定員25名）の単独施設として運営を開始し、おしぼり作業を中心に生産活動や就労に必要な知識の習得や能力の向上に向けた支援を行った。27年4月1日から定員を30名に変更し、更に30年4月1日からは35名に増員し、多くの障害者の方の活動の場となっている。

２．事業計画の重要事項

①利用率の確保

定員35名に対し、35名の方と利用契約を行い、月平均利用者数は３１．８人、年間利用率９０．８％であった。

第１表　利用率及び福祉収入の状況

区分	２８年度	２９年度	３０年度
定員	３０名	３０名	３５名
開所日	268日	269日	269日
延利用者数	7,695人	7,765人	8,555人
月平均利用者数	28.7人	28.8人	31.8人
利用率	95.6%	96.0%	90.8%
収　入（単位：千円）	59,521	60,598	64,177

（※利用率計算について少数点第二以下切り捨て）

②利用者支援の充実

利用者及び家族と個別懇談を行い、利用者の意向、適性その他の事情を勘案し「個別支援計画」を作成し、個々の利用者へ生産活動を通じ、社会生活に必要な支援を行った。

③利用者工賃の向上

月額平均支給額２６９円、増額支給することができ、岡山県Ｂ型事業所の平均賃金を上回る支給ができた。

第２表　工賃支給状況　（単位：円）

区分	２８年度	２９年度	３０年度
年支給額	8,193,135	8,061,428	8,334,674
時間単価	190	181	183
月額平均額／人	20,795	20,831	21,100
岡山県Ｂ型工賃実績	13,254（27年度）	13,691（28年度）	14,160（29年度）

第３表　作業収入状況　（単位：千円）

区分	２８年度	２９年度	３０年度
おしぼり	43,213	40,715	38,629
自動車部品	0	0	
合計	43,213	40,715	38,629

３．利用者の状況

第４表　利用者の状況

月	開所日数	延利用者数	月平均利用者数	利用率
4	22日	726人	33.0人	94.2%
5	23日	730人	31.7人	90.5%
6	22日	718人	32.6人	93.1%
7	23日	734人	31.9人	91.1%
8	23日	703人	30.5人	87.1%
9	21日	677人	32.2人	92.0%
10	23日	747人	32.4人	92.5%
11	23日	738人	32.0人	91.4%
12	25日	741人	29.6人	84.5%
1	22日	695人	31.5人	90.0%
2	20日	656人	32.8人	93.7%
3	22日	690人	31.3人	89.4%
計	269日	8,555人	31.8人	90.8%

（※利用率計算について少数点第二以下切り捨て）

第５表　年齢構成　平成31年3月末日

年齢区分	男	女	平均年齢
20未満	0人	1人	34.8歳
20～29歳	6人	2人	
30～39歳	8人	5人	
40～49歳	5人	4人	
50歳以上	3人	1人	
合計	22人	13人	35人

第６表　利用者の居住先　平成31年3月末日

区分	自宅	ＧＨ	つばき寮	計
男	１４人	８人	０人	22人
女	６人	５人	２人	13人
計	２０人	１３人	２人	35人

第７表　送迎車両利用状況（平成 31 年 3 月末日）

区分	岡山便	倉敷便	町内便	合計
男	5 人	6 人	3 人	14 人
女	2 人	3 人	1 人	6 人
計	7 人	9 人	4 人	20 人

４．事業内容の状況

① 相談及び援助

相談支援センター及び各関係機関と連携し、利用者の心身の状況や健康等の把握に努め、利用者及び家族に対し適切な情報提供を行った。

② 生産活動

おしぼり生産作業において、昨年より 2,086 千円収入が減少した。原因としては、30 年 7 月に西日本豪雨災害が発生し、県内各地に多くの被災をもたらしたことから、岡山県内への観光客が減少し、飲食店等で使用されるおしぼりの受容が減り、吉備の里に各社から注文される作業量が減少し収入減となった。

③ 社会参加

所内行事及び他団体との交流会を実施し、利用者の社会性の向上を図った。

第８表　社会参加状況

日程	内　容
4 月	歓迎会・花見会
6 月	ふるさと祭り
7 月	ボウリング大会
9 月	社会見学及び研修旅行
11 月	おしぼり協会懇親会
1 月	初詣・新年会
3 月	慰労会

④ 職場実習、求職活動等の支援

利用者の適性や希望（意向）を尊重し、求職活動に向けた支援に取り組むが、福祉的就労、一般就労へ移行することはできなかった。

（食事提供）

利用者をメンバーに加えた食事保健委員会で協議や嗜好調査を行い、栄養バランスがとれた季節感ある食事の提供を行った。

（健康管理）

定期健康診断の実施と作業後の手洗い・うがいの励行に努めた結果、新型インフルエンザに感染する利用者は発生しなかった。

５．その他

（安全管理及び防災対策）

日々の作業開始前に作業時の安全・危険防止について、繰り返しの指示、指導を行うとともに通報・消火訓練等を実施した。また、業務委託による設備点検に加え消火器・避難経路等についての自主点検を実施した。更に地震発生時の避難訓練も行った。

（職員研修）

各研修会を通じ、全職員が利用者支援の基礎から専門分野に至るまでの個々の段階に応じた研修に参加し、自らの資質向上に努めた。

（苦情解決）

第三者委員会を年３回（７月・１１月・２月）開催した。利用者及び保護者からの苦情受け付けはなかった。

第９表　第三者委員

吉備国際大学教員	松原浩一郎
吉備中央町知的障害者相談員	吉岡喜代子

（ヒヤリ・ハット及び事故）

第１０表

年月	内　容
30 年 9 月	（状況） 女性職員がベルトコンベアーから落ちてくるおしぼりを整理していたところ、突然男性利用者（32 歳、知的・自閉症）が近づき、背中を素手で、数回強く叩く。
	（対応） ①女性職員への対応 女性職員は、被害を受けた後、すぐに病院へ受診。右肩甲部打撲の診断を受ける。 ⇒ 労災対応 ②男性利用者への対応 叩く行為に至った原因確認と叩いた行為への厳重注意。 作業環境の配慮。（3 ケ月間、集団作業から個室作業へ変更し 1 月より集団作業参加） ⇒ 利用者の保護者へ説明し、支援内容を確認していただき了解を得る。

（その他）

30 年 7 月、15 年間就労活動で使用してきた配送車両の新規入替を行い、配送業務の充実、整備を行った。

吉備の里たんぽぽ（生活介護事業）
平成３０年度事業報告書

１．概　要

平成２５年４月より、障害福祉サービスの生活介護事業所(定員２０名)として開設。新設移転して６年目となる。活動内容は、自立に向けた生活支援を行いながら、利用者の希望に応じて、絵画・切り絵・さをり織り等の創作活動等を支援している。３０年度は、利用者の平均障害支援区分上昇および重度化が顕著になってきている。障害の変化や特性に応じたプログラムを見直すことで、利用者の感性を大切に、関心・興味ある活動の巾を広げていく必要がある。

２．事業計画の重要事項

①利用率の向上

４月当初２４名で活動を開始した。年度内に新規に４名契約したが、高齢施設入所（利用）または入院等２名退所した。併給利用も増えており、月平均約８０％弱の利用率であった。精神的・体調不良等による欠席が多く、利用率が減少した。

②利用者の活動の充実

重度化・高齢化対応策として、音楽活動の導入をはじめ、体操・造形・音楽・体育の外部講師による活動を実施した。室内外でのウォーキングに加えて、興味のあるダンスの新規プログラムを取り入れて健康づくりに力を入れた。

３．利用者の状況

(1)延べ利用状況

月	契約者（人）	開所日（日）	延利用者（人）	利用率（%）
4	２４	２２	３５０	79.5
5	２５	２３	３７２	80.8
6	２６	２２	３５７	81.1
7	２５	２２	３４４	78.1
8	２４	２３	３４７	75.4
9	２４	２１	３４５	82.1
10	２４	２３	３７２	80.8
11	２４	２２	３５６	80.9
12	２４	２２	３５２	80.0
1	２４	２２	３３４	75.9
2	２４	２０	３０３	75.7
3	２４	２３	３６５	79.3
計	２９２	２６５	４，１９７	79.2

(2)障害支援区分　（平成31年3月末日）

区分	利用者	男	女	平均区分
2	2	1	1	４．２
3	5	4	1	
4	8	5	3	
5	6	5	1	区分6･5の割合
6	3	3	0	３９％
計	２４	１８	6	

(3)年齢構成　（平成31年3月末日）

年齢区分	男	女	平均
20歳未満	0	0	４０歳
20～29歳	5	1	
30～39歳	5	2	
40～49歳	6	0	
50歳以上	2	1	
60歳以上	0	2	
計	１８	6	

(4)利用者の居住先　（平成31年3月末日）

	自　宅	つばき寮	グループホーム
男	１５	1	5
女	3	0	0
計	１８	1	5

(5)送迎車利用状況　（平成31年3月末日）

	岡山便	倉敷・総社便	吉備中央町内
男	5	3	5
女	2	2	2
計	7	5	7

４．事業内容の状況

(1)体験利用者の状況

関係機関と連携して、４月当初で２名契約したあと、年度内に体験利用を２名。その後正式に２名契約となり、年度末までに合計契約者２４名となる。

項　目	月日	内　容
体験利用	４月	町内　男性　1名
	５月	町内　女性　1名

(2) 外部講師による活動状況

内容	開催日	内　容
音　楽	第3 水曜日	楽器(キーボードなど)音に合わせて体を動かす。
体　操	第4 水曜日	ゲーム・ボールなどで機能維持・気分転換を図る。
造　形	第3 木曜日	油粘土を素材にして、個々の特徴が現れる作品の制作。
体　育	第1．3．4 金曜日	レクレーションを通じて身体機能維持、増進を図る。

(3) 地域ボランティア活動

活　動　場　所	日　程	内　容
特別養護老人ホーム 吉備高原賀陽荘	第3　月曜日	レクリエーション補助、交流等 実施
総　社　宮	第3　水曜日	老人クラブと合同で清掃奉仕作業を実施

(4)行事の状況

日　程	場所・展示・内容
H30．4月	家族会総会・春祭り
5月	社会見学　宇甘渓（町　内）
	◇県庁アートギャラリー展（岡山市）
6月	ふるさと祭り
	◇トマト銀行作品展（町　内）
7月	社会見学　安富牧場（岡山市）
8月	◇大和郵便局作品展（町　内）
10月	研修旅行（真庭市:蒜山高原）
12月	ホワイトパーティー（町　内）
31．1月	初詣　総社宮（町　内）
2月	◇県庁アートギャラリー展（岡山市）
3月	社会見学　石村展（高梁市）

(5)家族会との連携

家族会との関わりとして、誕生日プレゼント・お菓子作りなど利用者・家族・事業所と一体になって活動を支援していただいた。また、販売活動についても、さをり織りの製品制作・販売に保護者の協力が得られた。

5．その他

【ヒヤリ・ハット及び事故】

日　付	内　　容
H30.6月	（状況）送迎車の運転に関する苦情電話が入る。岡山市内で赤信号の点滅信号を通過していると報告受ける。
	（対応） 車内ドライブレコーダーを確認して、当該運転員に注意喚起と再発防止のため、送迎会議にて全運転員に対して、信号通過の注意点を指導する。
H30.10月	（状況）送迎車の運転に関する苦情電話が入る。岡山市内で車線変更に伴う報告を受ける。
	（対応）送迎会議および岡山県警北署による安全運転講習会の参加を経て、再発防止を図る。車間距離および法令順守の励行を指導する。

【第三者委員】

事業所内外で発生した、ヒヤリハットおよび事故報告等を今一度検証して、適切なご意見をいただいた。

年3回実施　（7月・11月・31．2月）

吉備国際大学　准教授	松原　浩一郎　氏
吉備中央町知的障害者相談員	吉岡　喜代子　氏

【防災対策】

通報・消火等の訓練を実施するとともに、設備点検（業者委託）や消火器・避難経路等についての自主点検を実施した。日中において、地震発生時の避難訓練を実施した。

【健康・衛生管理】

歯科検診・定期健康診断の実施のほか、看護師による毎日の健康確認に努めるとともに、感染症対策として手洗い・うがいを励行して注意喚起をした結果、インフルエンザ等の発症には至っていない。

【職員研修】

利用者支援の専門分野に応じて、研修に参加して、資質向上に努めた。

【学生実習の受入】

岡山県保育実習養成校を通じて、年間6校延べ11名の学生を受け入れた。

吉備の里つばき寮
平成３０年度事業報告書

１．概　要

平成２２年４月から宿泊型自立訓練事業（生活訓練）を実施し、一般就労している障害者や就労継続支援Ａ型・Ｂ型、就労移行支援、生活介護等の障害福祉サービスを利用している障害者を対象として、日常生活スキルの向上等を目的とした生活訓練や余暇活動の充実に向けた各種の支援を行うとともに、地域生活への移行を促進した。

２．事業目標への取り組み

（１）　個別支援(訓練)サービスの充実

地域生活への移行に向け、規則正しい生活の確立を基本に、生活スキルの習得や余暇活動の充実等利用者個々のニーズに応じた訓練と必要な支援の実施に努めた。

具体的には、職員の早出勤務において、起床支援をはじめ基本的な身辺処理等の支援を行うと共に、生活チェック表を活用して出勤準備や健康状況を確認して個別の指導や支援を行った。

また、遅出勤務では、利用者の帰寮後から、金銭管理や居室の整理・整頓、食事準備や片付けの指導の他個別に相談支援を行った。

全体的には、日常生活における課題の軽減につながる利用者が多く、一定の効果が見られるようになったが、集団生活に馴染めず、指導・支援にさらなる工夫を要する利用者もいた。

（２）地域生活移行の推進

宿泊型自立訓練の利用期間は原則２年間となっているが、延長している利用者４名、期間満了を迎えた方５名、満了を待たずして修了した方３名を地域生活に送り出すこととなった。

また、期間満了を迎えた方１名については、入居を予定していた他法人のグループホームの開設が遅れたことから、やむを得ず利用期間の延長を行うこととなった。

退所利用者の地域移行の内訳については、下表のとおり。

【退所者・地域移行の状況】

移行先等	男	女	計
グループホーム（法人内）	3	3	6
グループホーム（法人外）	0	0	0
アパート	1	0	1
自宅	4	1	5
計	8	4	１２

（３）利用の促進と運営の安定化

当初計画では、退所者の補充として１１名の新規利用を目標として募集活動を行った。

その結果、年度当初に４名、中途で８名の計１２名の新規利用に結びつき、一時は定員を充足するなど目標を上回ることができた。

特に相談支援事業所を通じ３０歳以降の在宅障害者や女性の照会が多くあり、利用が増えた。

新規利用者の内訳は次のとおり

【新規利用の状況】

入所前の所属	男	女	人数
障害者支援施設（法人内）	1	2	3
障害者支援施設（法人外）		2	2
病院	1		1
在宅	4	2	6
計	6	6	１２

３．利用者の状況

年度内に新規入所者が１２名、退所者が１２名あり、年間平均利用者数は１６．０人となった。

年度当初は、利用者数が定員を大きく下回る状態であったが、徐々に利用者が増え、１０月には定員を充足するに至った。

しかし、年末から地域移行による退所が相継ぎ、３月までに急速に利用者が減少することとなった。

相談事業所等への働きかけや広報は着実に浸透してきており、新年度に向けて利用相談件数は増加した。

年間の利用状況は次のとおりであった。

【　利用状況　】

項目／月	内　訳		
	初日	入所	退所
４月	１６	４	１
５月	１６	１	
６月	１６		
７月	１６	２	
８月	１８		１
９月	１８	１	
10 月	２０	３	１
11 月	２０		
12 月	２０		１
１月	１９		４
２月	１６	１	２
３月	１４		２
計	２０３	１２	１２

平成３１年３月３１日時点における利用者の状況は次の①～⑤のとおり。

①　【　障害支援区分別構成　】

障害支援区分	男	女	計
1	1	0	1
2	4	3	7
3	1	0	1
4	2	3	5
5	0	0	0
6	0	0	0
計	8	6	１４

②　【　手帳区分別構成　】

手帳区分	男	女	計
身体障害者手帳	1	0	1
療育手帳	4	6	１０
精神保健福祉手帳	3	0	3
計	8	6	１４

※重複障害者１名あり

③　【　出身地別構成　】

市町村	男	女	計
岡山市	0	2	2
倉敷市	0	1	1
総社市	1	0	1
笠岡市	0	1	1
新見市	1	0	1
津山市	2	2	4
吉備中央町	3	0	3
早島町	1	0	1
計	8	6	１４

④　【　日中活動区分別構成　】

日中活動先	男	女	計
一般企業等	0	0	0
就労継続Ａ型	4	2	6
就労継続Ｂ型	2	3	5
就労移行支援	0	1	1
生活介護	1	0	1
職業訓練校	1	0	1
計	8	6	１４

⑤　【　年齢別構成　】

年齢区分	男	女	計
１８～１９歳	0	1	1
２０～２９歳	5	1	6
３０～３９歳	1	4	5
４０～４９歳	0	0	0
５０～５９歳	2	0	2
計	8	6	１４

４．生活訓練の状況

地域移行に向けた日常的生活スキルの向上を図ることを目標とし、健康・衛生管理、身辺処理、金銭管理指導等を行うとともに、食事提供や余暇活動等の支援を行った。

（1）食事提供

日常の食事は、法人給食委員会での協議や嗜好調査を踏まえ、季節感のある食事の提供を行った。

その中で、配膳、片付け、清掃については利用者全員が当番制で行い、個々の役割意識を高められるよう設定した。

また、日曜日の昼食は、利用者と職員で月１回程度、調理実習を実施して、楽しみながら簡単な調理が習得できるように支援した。

（2）健康・衛生管理支援

看護職員が中心となり、定期健康診断のほか、毎月血圧、体重測定、服薬確認等を行いながら、日常の健康管理に努めた。

また、うがいや手洗いの励行・マスクの着用などを働きかけ、インフルエンザやノロウィルスなどの感染予防に努めた。結果として、利用者２名がインフルエンザに感染したものの、静養室で隔離療養したところ、その後の広がりはなく、症状も軽微なものにとどまった。

（3）余暇活動支援

寮内において、利用者がゆとりと活力に満ちた生活が送れるよう施設行事の開催や地域行事への参加を行った。

開催行事の企画にあたっては、利用者の主体性を尊重し、意向や希望を多く取り入れることに努めた。

【　行事開催・参加の状況　】

月	行　事　名	場　所
4月	利用者自治会総会	寮　内
	花見会	
	さんさん祭	町　内
	新利用者歓迎会	寮　内
	県障害者スポーツ大会	県　内
6月	自治会旅行	京都方面
8月	北部住区夏祭り・鬼伝祭	町　内
9月	合同運動会	町　内
10月	吉備高原車いすふれあいロードレース大会	町　内
	映画鑑賞・買物訓練	倉敷市
12月	クリスマス・忘年会	町　内
3月	慰労会・送別会	寮　内

（4）利用者研修

寮内での生活を地域生活、社会生活の一部に置き換え、それらの基本を学ぶための研修を定期的に実施した。多くの利用者が日常的な生活の中で自分本位になっている部分などが確認でき、意識の改善につながった。

5．相 談 支 援

個別支援計画の作成にあたり、個別懇談を行って利用者及び家族の意見・要望を聞きながら計画に盛り込むよう心がけた。特にサービス内容の変更や障害福祉サービスの変更調整に当たっては、本人・家族・関係機関等との連携を密にするとともに、丁寧な説明を実施して相互に確認できるよう適切な支援に努めた。

6．そ　の　他

（1）利用促進

宿泊型自立訓練事業所連絡協議会（県内３施設加盟）において説明会を開催し、宿泊型自立訓練の必要性や魅力をＰＲするとともに、県内の相談支援事業所等と連携を図って利用者募集を働きかけた。

また、法人内においては、障害者支援施設吉備の里なでしこと連携を図って退所利用者の利用を働きかけた。

（2）見学・利用相談・体験利用の受け入れ

吉備の里なでしこをはじめ、市町村や相談支援事業所、支援学校等と連携を図るとともに、見学や利用相談を積極的に受け入れた。

その中から興味を示した方には、施設をより深く理解してもらうために、空き部屋等を活用して３日～５日程度体験利用として受け入れを行い、１４人が１８回にわたって利用した。

なお、次年度からは「短期入所」の制度を活用した受け入れができるよう、事業開始の手続きを行った。

（3）生活環境の整備

設備の老朽化に伴う改修は前年度までに行ったことから、今年度は小規模な修繕のみを

実施するとともに、維持や美化に努めた。

（4）安全管理

消防計画に沿って防災訓練を行うとともに、設備の定期点検を行い、不備がある場合には早急に対応して安全の確保に努めた。

また、法人内での防犯研修や危機管理研修、安全運転講習等に参加して職員の危機管理意識の向上を図った。

（5）苦情解決

福祉サービスに対する苦情の申し出はなかったが、１１月には苦情解決第三者委員への状況報告を実施して、サービス向上のためのアドバイスを受けた。

第三者委員名簿

所　　属	氏　名
吉備中央町議会議員 町議会議長	黒田　員米
塚本内科医院居宅介護事業所 管理者	柳原　富美男

（6）家族の会との連携

吉備の里地域生活ホームと合同で家族の会を設置しており、利用者・家族・職員が行事や研修を一緒に行うなどして連携の維持・強化を図った。

（7）地域との連携

地域住民会に北部住区自治会第６班の一員として参加し、一斉清掃や地域の各種行事を通じて、地域社会活動の関わりを深めた。

（8）利用者の自治会

利用者全員が参加する自治会を組織し、行事や余暇活動に利用者意見を反映できるようにするとともに、寮の運営などに対する意見にも耳を傾けてサービス向上に生かした。

吉備の里地域生活ホーム
平成30年度　事業報告書
共同生活援助事業

1．概　　要

平成30年度は、定員92名の定員で共同生活援助事業(介護サービス包括型)の運営を行ったが、年度末にGHを2カ所増設したため、定員100名に変更した。
共同生活住居の中での支援の質を高め、日中活動（就労等）をはじめ、日常生活支援や金銭管理の支援、医療支援及び相談支援を中心とした個別の支援の充実を図っている。

また、直接の支援者でもある世話人の支援力向上を目指して定期的に会議を開催している。

事業推進体制

利用定員		１００名
体制	管理者	１名
	ｻｰﾋﾞｽ管理責任者	４名(兼務３名)
	生活支援員	７名(兼務２名)
	看護師	１名
	世話人	３７名
	夜間支援員	６名

共同生活住居の設置状況

名　　称	入居定員	開設年度
嵯　　峨	６名	平成　8年度
上　　野	５名	平成14年度
吉備１号(A)(B)	９名	平成15年度
吉備２号(A)(B)	１０名	平成15年度
長　　坂	４名	平成17年度
さんＳＵＮ	６名	平成20年度
あじさい	４名	平成22年度
あ　ざ　み	２名	平成23年度
つ　つ　じ	５名	平成24年度
す　み　れ	４名	平成24年度
アンサンブル	８名	平成24年度
ヴェスタ	２０名	平成24年度
あさがお	５名	平成27年度
さくら	４名	平成28年度
つばき	４名	平成30年度
アメニティー	４名	平成30年度
計	１００名	

2．事業計画の重要事項への取り組み

（1）　希望に応じた地域への移行促進

入居者より単身生活への移行及び地域生活に向けた相談を受け、平成30年度は、1名の地域移行者の支援を行った。

1名は、倉敷市内での単身生活へ移行した。

（2）　安心・安全な居住空間の確保

地域生活ホームの防災対策として、共同生活住居に自動火災報知設備を設置し、防犯カメラの設置などの安全対策を進めている。

また、食事を提供する上での衛生管理については、世話人に向けての研修を行うと共に日常的な食品管理について話し合いを行っている。

（3）　支援者間の連携の強化と支援の質の向上

共同生活住居で直接的な支援を行う世話人に対して障害への理解、具体的な支援の方法について定期的に会議を設け、支援の質の向上を図ると共に遅出勤務者が各共同生活住居を訪問し常に情報交換ができる体制に努めている。

特に世話人が事務所に気軽に入室し談話できる環境づくりに努め精神的な障壁の解除や支援の共通理解の場面設定に努めている。

入居者の多くが日中活動として、多様な事業所や福祉サービスを利用しており、日中活動の支援者とも密な連絡を図り、活動の充実に向けて取り組んでいる。

3．入居者の状況

入居定員92名に対して月平均の入居契約者数は92名であった。1月から2カ所GHを新設し定員を100名に引き上げた。2月末に、利用者1名が不慮の事故により死亡した。

第1表　　利用（契約）の状況

月	男	女	計
4月	６３	２９	９２
5月	６３	２９	９２
6月	６３	２９	９２
7月	６３	２８	９１
8月	６３	２８	９１
9月	６４	２７	９１
10月	６４	２７	９１

11月	６４	２８	９２
12月	６４	２８	９２
1月	６５	２８	９３
2月	６５	３０	９５
3月	６４	３０	９４
計	７６４	３４１	１，１０６

第２表　年齢別構成（3月31日現在）

年齢区分	男	女	計
２０歳 未満	０	０	０
２０～２９歳	２０	８	２８
３０～３９歳	１２	９	２１
４０～４９歳	２０	８	２８
５０～５９歳	９	５	１４
６０歳 以上	３	０	３
計	６４	３０	９４

平均年齢　39,7歳

第３表　障害程度区分別構成（3月31日現在）

障害程度区分	男	女	計
１	７	１	８
２	２７	１５	４２
３	２１	１２	３３
４	２	２	４
５	３		３
非該当・未	４		４
計	６４	３０	９４

第４表　日中活動区分別構成（3月31日現在）

日中活動区分	男	女	計
一般企業等	１５	１１	２６
Ａ型事業所	３０	１０	４０
Ｂ型事業所	１４	６	２１
生活介護事業所	２	２	３
就労移行支援事業	０	１	１
職業訓練施設	０	０	０
日中活動なし	３	０	３
計	６４	３０	９４

４．生活支援

世話人による日常生活（食事）支援に加え、生活支援員が通院や外出支援、余暇支援等の他、地域生活ホームの共有部の清掃の他、入居者の意向を確認した後に居室内の清掃支援や同性による入浴介助を実施している。

（１）食事提供

朝、夕の手作りによる調理を世話人が担う中で、アレルギーの有無に注意し、おいしい食事と共に安心して食事ができるように食事提供を実施している。

その中で男女別や年齢構成、個人の嗜好や意向と季節感を考慮しながら献立を立案しており、利用者の多くから満足しているとの声が聞かれた。

（２）健康・衛生管理支援

看護師を配置し、365日・24時間の体制で日常の健康管理の他、緊急時対応の充実を図っている。

定期健康診断のほか、必要に応じて血圧、体重測定を行いながら日常の健康管理に努めている。

生活習慣病の発生が懸念される入居者が増加しており、血糖値の測定・インシュリン注射の支援など具体的な医療支援も実施している。

（３）金銭管理支援

利用者本人の同意を得ながら、世話人が日常的な預貯金の出し入れ、小遣い支給等の管理を行い、サービス管理責任者が、9月末・3月末時点の預り金について利用者・家族に報告を行った。

金銭の支出を理由なく制限することも障害者虐待に繋がることを支援者間で学習を実施し、直接的な支援に関わる世話人にも理解してもらうように繰り返しの指導を行っている。

（４）求職活動・就労支援

第4表にあるように入居者の日中活動の場所が「就労継続支援Ａ型事業所」が最も多くなっており、地域の社会資源との連携がより重要となってきている。

加齢による職業能力の低下や産業構造の変化なども今後に予想されるものであり、多様な部分について注視していくことが重要と思われる。

また、就労先事業所を訪問しながら、利用者の就労状況の把握を行い、事業所からの相談やトラブルの発生に対応するとともに必要に応じてケア会議等を開催し共通認識に努めている。

(5) 余暇活動支援

休日の時間の過ごし方を課題とする入居者の支援として、各種行事を開催し参加を促している。

開催行事の企画にあたっては、主体性を尊重し、入居者の意向を多く取り入れることに努めた。

家族の会の協力を得て、活動に対して費用の一部補助を受

ける事が可能となり、大阪や東京にあるテーマパークへの旅行やプロ野球のナイター観戦などの多様な余暇を楽しむことができている。

行事開催・参加の状況

月日	件　　名	場　所
4.8	花見会	体育館
6.3	吉備の里ふるさと祭り	所内
7.22	家族の会バス旅行	香川県
8.5	北部住区夏祭り	町内
10.7	ロードレース大会（中止）	町内

（5）入居者研修

支援している中で見られる入居者の課題などを入居者研修として座学や実践の場を設定し、社会生活の中で活用できるように支援を行っている。

利用者研修の状況

月日	研修内容	場所
3.10	「歯周病について」	法人内

（6）その他の日常生活支援

サービス管理責任者、生活支援員、世話人が協力し、家庭と連携をとりながら、各種の申請や調整等の支援を行っている。

5．相 談 支 援

サービス管理責任者を中心に、新規利用に関する相談や家族関係の相談、利用者間のトラブルに関する相談など、利用者の安定した生活の維持をめざして様々な相談を行っている。

日常的な相談については、生活支援員や世話人も含めて適切に対応し、入居者の安心した生活につながるように職員間のネットワークを重視した支援を行っている。

6．そ の 他

（1）利用促進

吉備の里つばき寮からの新規利用者を受け入れるとともに、次年度の地域移行者を想定した利用計画を立案し対応を検討している。

（2）生活環境の整備

共同生活住居の構造物の中で老朽化している部分については、修繕を適宜実施し快適な生活に繋がるように支援を実施している。

（3）安全管理

避難訓練や通報訓練を消防計画に沿って引き続き実施するとともに、防災機器の点検管理や避難経路の確認等を定期的に実施した。

消防署には、住居の周辺地図と家屋の写真を資料提供し、緊急時に速やかな消防、救急体制が行われるように協力を依頼している。

新しく世話人業務に就いた支援者には、救命救急法の講習に参加してもらうなど、安全の管理意識の向上に努めている。

（4）苦情解決・サービス評価

福祉サービスに対する苦情として受け付けたものは無いが、「ヒヤリハット事案」として第三者委員に報告を実施し指導を受けている。

第三者委員名簿

所　　属	氏　名
吉備中央町議会議員 町議会議長	黒田　　員米
塚本内科医院居宅介護事業所管理者	柳原　富美男

（5）保護者との連携

吉備の里家族の会として保護者と合同行事や定例会を開催し、意見交換やレクリエーション、共同作業、研修会等を行っている。ただし、定期的な家族の会の参加状況は芳しくなく、特定の家族のみが取り組んでいる傾向も確認される。

また、各家庭へはサービス管理責任者や世話人が中心となって日常的に連絡を取り合っている。

（6）地域との連携

それぞれの住居が属する地域の住民自治会に入会して地域住民と一緒に活動を行っている。

毎年の恒例行事に参加する団体としての認知も深まり、地域からのリクエストも増えている。

地域の行事や活動に参加することで障害者の地域生活への理解が深まることから今後も積極的に支援を行うものとする。

自立生活援助事業

１．概　　要

障害者支援施設やグループホーム等から一人暮らしへの移行を希望する知的障害者や精神障害者等について、本人の意思を尊重した地域生活を支援するため、一定の期間にわたり、定期的な巡回訪問や随時の対応により、障害者の理解力、生活力等を補う観点から、適時のタイミングで適切な支援を行うサービスを行った。

２．利用状況

第１表　　利用（契約）の状況

年齢区分	男	女	計
２０歳 未満	0	0	0
２０～２９歳	1	0	1
３０～３９歳	0	0	0
４０～４９歳	0	0	0
５０～５９歳	1	0	1
６０歳 以上	1	0	1
計	3	0	3

３．自立生活援助実施日数

基本１日/週　　定期訪問　（職員計２名）

４．支援方法　　3月末現在

支援内容	回数	障害種別	人数
定期訪問支援	１２１	知的	３名
随時支援	１３	身体	
来所相談		精神	
同行支援	4	発達	
ケア会議等	2	その他	
計	１４０		３名

５．支援内容

定期	生活面の相談（掃除・洗濯・食生活）
定期	家賃や公共料金の相談（経済面）
随時	体調や通院状況など健康面
随時	人間関係（地域住民）
同行	通院や外出などの手続き・外出同行
ケア会議	職場との連絡会議・家主との契約更新等

６．現在の状況

一般就労者１名への対応について

町内の一般企業に勤務している男性１名へサービス提供を行った。サービス提供当初は、会社へ出勤出来ず、アパートに引きこもることが多くなっていた。週１回の訪問支援を通し、出勤するように声掛けを行うとともに、食生活（配食サービスの利用）生活費使用のアドバイス等を実施した。一時的に、出勤率は向上したが、10月には、全く出勤出来なくなった。関係機関（相談支援C）とともに、職場上司との調整会議を実施し、配置変更を実施した。12月末より出勤することが出来だした。１月～3月は、安定した出勤が出来た。

借家での共同生活者２名への対応について

町内のA型事業所に通っている男性２名へサービス提供を行った。借家で生活しているが、家主との関係が悪化し、契約破棄の状況になった。週１回の定期訪問を実施し、借家周辺の剪定の実施（業者の斡旋）屋外の片づけの実施を行った。また、食生活の不安・負担軽減のため配食サービスの手配を行った。大家との約束事項（剪定・屋外の片づけ）が遵守出来たので、借家の契約更新が出来た。その後、将来への不安や生活面での心労などから、地域での単身生活を断念し、グループホームに戻りたいとの意向があったが、自立生活援助事業によるサポートの継続や他機関の協力体制について説明することで、引き続き地域での生活を継続することが出来た。

吉備の里チャレンジ

平成３０年度 事業報告書

１．概　　要

障害者と雇用契約を結び、外構維持管理清掃業務、建物清掃、農作物の栽培作業及び調理委託業務を行いながら、仕事に関わる知識の習得や能力・技術の向上に向けた支援を行った。

事業の内容（作業）

①	屋内清掃業務	業務委託
②	屋外整備業務	業務委託
③	給食提供業務	業務委託

組織体制

利用定員　20名	
管理者	1名
サービス管理責任者	1名
生活支援員	1名
職業指導員	8名
作　業　員	3名
栄　養　士	1名

２．事業目標への取り組み

(1)就労機会の提供と作業能力の向上

障害者総合支援法及び労働基準法及び関連法を遵守し、屋内清掃業務、外構清掃業務及び給食業務を行うことで、作業の訓練と就労支援を行なった。

また、障害特性に配慮し、それぞれに合った作業配置を行うことで支援を行なった。

(2)安全で安心な職場づくり

安全には十分な配慮を行いながら作業に取り組んだ。今年度は労災等の事故はゼロであった。

継続した安全で安心な職場づくりを行う。

(3)賃金

賃金については最低賃金を確保し支給する事が出来た。

（法改正　平成30年10月1日　781円→807円）

３．利用者（社員）の状況

（利用定員20名）

月	在籍数（人）	開所日（日）	延人数（人）	人数/日（人）	利用率（%）
４月	21	30	442	14.7	73.5
５月	21	31	451	14.5	72.5
６月	21	30	428	14.2	71.0
７月	21	31	426	13.7	68.5
８月	21	31	431	13.9	69.5
９月	21	30	441	14.7	73.5
10月	21	31	459	14.8	74.0
11月	21	30	448	14.9	74.5
12月	21	31	439	14.2	71.0
１月	21	31	427	13.8	69.0
２月	22	28	367	13.1	65.5
３月	22	31	451	14.5	72.5
計	270	365	5,210	14.3	71.3

入退職者の状況

入職者	1名
退職者	0名

生活の場の状況（３月末時点）

生活の場	男（人）	女（人）	計（人）
地域生活ホーム	12	6	18
つばき寮	0	1	1
自　宅	2	1	3
計	14	8	22

年齢別構成（３月末時点）

年齢区分	男（人）	女（人）	計（人）
20歳未満	0	0	0
20～29歳	3	1	4
30～39歳	3	7	7
40～49歳	6	2	8
50～60歳	2	1	3
計	14	8	39.2歳

出身地別構成（３月末時点）

出身地区分	男（人）	女（人）	計（人）
岡山市	6	2	6
倉敷市	1	1	4
総社市	1	0	1
玉野市	1	0	1
笠岡市	1	1	1
真庭市	1	0	1
井原市	0	1	1
吉備中央町	3	2	6
美咲町	0	1	1
計	14	8	22

４．作業支援の状況

町内の各事業所から受託した外構維持管理清掃業務（草刈・草取作業、松喰木伐採、樹木剪定等）建物清掃業務（屋内清掃業務）、農作物の栽培・販売作業及び調理委託業務（法人内給食）を行った。

支援費等収入

延べ営業日	365 日
延べ利用者数	5,210 人
支援費等収入	46,426,000 円
障害者雇用調整金等	11,664,000 円

（屋内清掃業務）

受託先及び内容

主要受託先	内　容
国立吉備高原職業リハビリセンター	清掃業務
吉備中央町　企画課	吉備北公園維持管理
株式会社吉備 NC 能力開発センター	宿舎・会社清掃業務

業務体制

職業指導員	非常勤１名（7.5h）
勤務時間	7：30～16：00（7.5h）
社員（男子）	5 名
社員（女子）	5 名
勤務時間	7：30～15：30（6h）

（屋外清掃業務）

受託先及び内容

主要受託先	内　容
吉備中央町水道課	上水道施設草刈清掃業務 簡易水道施設草刈清掃業務 浄化センター外構維持管理業務
国立吉備高原職業リハビリセンター	プール管理業務 外構維持管理業務
国立吉備高原医療リハビリセンター	外構維持管理業務

※その他、随時受託。

業務体制

職業指導員	常勤３名
勤務時間	8：00～17：00（8h）
社員（男子）	7 名
社員（女子）	0 名
勤務時間	8：30～16：30（6h）

（給食提供業務）

受託先及び内容

受託先	内　容
社会福祉法人　吉備の里	調理業務

業務体制

職業指導員	常勤３名
栄養士	常勤１名
作業員	非常勤３名（8h, 7.5h, 4h）
勤務時間	5:00～19:00（シフト）
社員（男子）	2 名
社員（女子）	3 名
勤務時間	7:10～18:45（6h シフト）

（賃金支給）

岡山県の最低賃金が平成 30 年 10 月より 781 円から 807 円に変更となり対応した。

平成 30 年度　賃金支給状況

内容	総支給額	平均月額
金額	25,100,116円	100,000円

（食事提供）

利用者の作業場所（屋内・外構・給食）が異なっているため、昼食については、チャレンジの提供している給食だけでなく、本人の要望を受け、外部の宅配弁当及び職業リハの食堂で摂ることとしている。

（健康管理支援）

定期健康診断の実施及び肥満と糖尿病について利用者研修を行い健康管理に努めた。今年度は２月にインフルエンザに職員３名、利用者７名の感染が発生し、県民局（保健所）からの指導を仰ぎ２週間程度での終息となった。

（利用者研修）

利用者間の親睦を深めるため、１０月に日帰り研修を実施。３月には健康管理のため、看護師による肥満と糖尿病の恐ろしさ、又作業を安全に行う上でのチームワークの必要性について研修を実施した。

５．相談支援

個別支援計画の作成にあたり、利用者及び家族の意見・要望を十分反映するため、個別懇談を10月、3月の2回開催し、支援計画に盛りこむことができた。多くの利用者及び家族からは、長期間の利用をしたいと要望があった。その他の日常的な相談については、適切に応じた。

６．その他

（職員教育の推進）

全職員個々の段階に応じた利用者支援の基礎から専門分野に至る研修等へ参加をすすめ、全職員の資質の向上に努めた。

（作業環境への整備）

安全・衛生的で働きやすい職場環境にするため、グループごとの作業場及び休憩所の環境美化を促進した。

（安全管理）

防災訓練の定期的な実施に加え、作業で取扱う機械等の安全教育を利用者及び職員に行ない、安全確保に努めた。

（作業現場の安全確認等）

（ヒヤリ・ハット及び事故）

０件

（労働災害）

平成３０年度は労働災害申請なし。

（行事実施状況）

月	内　容	場 所
６月	Ａ型事業所交流会 （平成いもの会）	岡山
７月	慰労会	町内
10 月	日帰り研修旅行	島根
１月	初詣	岡山

（苦情解決）

福祉サービスに対する苦情として受け付けたものはなかった。